

## 「芸州筆の歴史」出版のお祝い

このたび、財団法人広島文化振興基金の助成を頂き「芸州筆の歴史」を出版されることを心よりお慶び申し上げます。

熊野といえは筆を思い、筆といえは熊野を想う」と言われるように、熊野の筆づくりは約一五〇年の歴史と伝統に根づいた、わが町の個性であります。また、筆は単なる用具ではなく、人の心の動きに応じて、人の心を伝え、人の美意識を表現し、芸術を創造する用具であります。オーバーな表現をすれば、日本個有の美術・工芸のすぐれた作品は、すべて筆がどこかで使われていることは事実であり見逃すことはいきません。

熊野町町民は、こうしたことを、ひとしく誇りとして、この伝統を守ることを深く自覚しているところであります。

このように考えてみますと、「芸州筆の歴史」の出版は町民の誇りの裏付けを資料をもとに明らかにされたことであり、また、筆生産の成立過程や生産発達の経過を資料をもとに明確にされたことであり、その意義はきわめて高いと考えます。さらに、また、出版にかかわられた郷土史研究会の存在とその功績を明らかにしなければなりません。郷土史研究会は

昭和56年9月に発足し、60名の会員を容し、定期的に研究会を実施し、その成果を挙げてこられました。その間、町内の文化財の発掘、発見や保護に尽力されたことは町民の認めるところであります。こうした活動が「芸州筆の歴史」の出版で結晶された功績を高く評価したいと思います。

「芸州筆の歴史」の出版を深く感謝をし、さらに、今後郷土史研究会が筆にかかわるかくれた史実の発掘や、生産の流通機構や、生産技術の発達など研究がすすめられ、熊野町における産業経済の発展に貢献されますことを心から期待をします。

出版のお慶びと研究会の発展を祈念します。

熊野町教育委員会 教育長

光本吉伯